

国語科学習指導案(日本語指導)

〈授業の視点〉

日常生活で使っている言葉を、仲間ごとに分ける場面において、異学年児童のグループで話し合う活動を取り入れることによって、学習意欲が高まり、まとまりの名前やつけたしの言葉を書くことができるであろう。

1 単元 仲間の言葉と漢字(光村・国語2年上)

2 単元設定の理由

(1) 目標

知識及び技能	・日常生活で使っている言葉を分類する活動を通して、言葉を仲間ごとに分け、まとまりの名前を書くことができる。
思考力、判断力、表現力	・一つ一つの言葉の意味を手がかりにして、どの言葉とどの言葉が仲間になるかを考えることができる。 ・仲間分けをした言葉を文中に当てはめて、文章を作ることができる。
学びに向かう力、人間性等	・言葉には、一つ一つのものを表す言葉と、まとめていう時の言葉があることに気づき、仲間分けの楽しさを感じることができる。

(2) 学習内容及び系統性

学年「単元名」	学習内容
1年 「つづけよう①②③」	・言葉遊びを通して、身近なことを表す語句の量を増し、語彙を豊かにする。
1年「ものの名前」	・ものの名前には、一つ一つを分けていう時の名前(下位語)と、意味によってまとめてつけた時の名前(上位語)があることを知る。
2年「うれしいことば」	・どんな時に、どんな言葉を言ってもらおうと嬉しいのかを知る。
2年(本単元) 「仲間の言葉と漢字」	・日常生活で使っている言葉を仲間ごとに分け、まとまりの名前やつけたしの言葉を書く。 ・仲間分けをした言葉を文中に当てはめて、文章を作る。
2年「似た意味の言葉、 反対の意味の言葉」	・言葉には、類義語や対義語があることを知り、意味による語句のまとまりがあることに気づく。
2年 「様子を表す言葉」	・様子を表す言葉(擬態語・擬声語・形容詞・比喩)を知り、言葉への興味を広げる。
3年 「春・夏・秋・冬の暮らし」	・春夏秋冬らしさを感じる言葉を知り、語彙を豊かにする。

本単元を学習することは、日本語指導が必要な低学年児童にとって、日本語の語彙を増やすとともに、習得した言葉を進んで活用する上で有効であると考えられる。

3 児童の実態

《省略》

4 評価規準

観 点	おおむね満足できる状況
知識及び技能	・ 日常生活で使っている言葉を分類する活動を通して、言葉を仲間ごとに分け、まとまりの名前やつけたしの言葉を書いている。
思考力、判断力、表現力	・ 一つ一つの言葉の意味を手がかりにして、どの言葉とどの言葉が仲間になるかを考えている。 ・ 仲間分けをした言葉を文中に当てはめて、文章を作っている。
学びに向かう力、人間性等	・ 言葉には、一つ一つのものを表す言葉と、まとめていう時の言葉があることに気づき、仲間分けの楽しさを感じている。

5 指導と評価の計画

学習活動	支援及び留意点	観点 評価項目(方法)
<p>☆第1時☆ (本時)</p> <p>○めあてをみんなで読む。 めあて：いつも使っている言葉を、仲間ごとに分けよう。</p> <p>○みんなで考えながら、言葉を仲間分けする。</p> <p>○仲間分けをしたものに、まとまりの名前を付ける。</p> <p>○グループで話し合いながら、言葉カードを仲間分けする。</p> <p>○仲間分けの結果を発表する。</p> <p>○今日の学習を振り返る。</p>	<p>*【言葉カードAセット】をみんなで仲間分けしながら、仲間分けのやり方をつかませる。</p> <p>*「8個の言葉の中に、仲間になるものはあるかな？」と投げかけて、仲間分けをさせる。</p> <p>*何を表している言葉なのかをもとにして、まとまりの名前を考えさせる。</p> <p>*1年生と2年生混合で、AとBのグループを作る。</p> <p>*グループで話し合いながら、【言葉カードBセット】を仲間分けするように伝える。</p> <p>*仲間分けができたなら、まとまりの名前を書くように伝える。</p> <p>*発表の手本を示し、やり方をつかませる。</p> <p>*分け方やまとまり名前を、自分達のグループのものと比較させる。</p> <p>*言葉には、一つ一つの物の名前と、まとまりの名前があることを確認する。</p>	<p>知識及び技能</p> <p>◇日常生活で使っている言葉を仲間ごとに分け、まとまりの名前やつけたしの言葉を書いている (ワークシート)</p>
<p>☆第2時☆</p> <p>○めあてをみんなで読む。 めあて：テーマを決めて言葉を集め、仲間分けゲームをしよう。</p>		

<p>○グループごとに集める言葉のテーマを2～3種類決める。</p> <p>○言葉を集める。</p> <p>○集めた言葉が、どんな仲間の言葉なのかを当て合う。</p> <p>○今日の学習を振り返る。</p>	<p>*前時のグループで取り組ませる。</p> <p>*テーマを決めて、言葉集めをすることを伝える。</p> <p>*テーマ決めて困っていたら、「食べ物」や「体の部分」でやってみるように促す。</p> <p>*1テーマにつき集める言葉は、5つにすることを伝える。</p> <p>*互いに集めた言葉を発表して、どんな仲間の言葉なのかを当て合う。</p> <p>*学習で扱った言葉、まとまりの名前を確認する。</p>	<p>思考力・判断力・表現力</p> <p>◇相手の集めた言葉が、どんな仲間の言葉なのかを当てようとしている。(発言)</p>
<p>-----</p>		
<p>☆第3時☆</p>		
<p>○めあてをみんなで読む。 めあて：仲間分けをした言葉を使って、文章を作ろう。</p>		
<p>○第1時、第2時で仲間分けをした言葉を当てはめて、文章を作る。</p> <p>○できた文章を発表する。</p> <p>○今日の学習を振り返る。</p>	<p>*仲間分けをした言葉の当てはめ方を説明し、文章の作り方をつかませる。</p> <p>*主語に使う言葉、述語に使う言葉、修飾語に使う言葉を用意しておく。</p> <p>*書けたら読み返すように伝える。</p> <p>*発表することで、友達のがんばりぶりに気づかせ、個々の学習意欲が高まるようにする。</p> <p>*文章が作れたこと、発表できたことを誉め、今後の学習に対して自信を持たせる。</p>	<p>思考力・判断力・表現力</p> <p>◇仲間分けをした言葉を文中に当てはめて、文章を作っている。(ワークシート)</p>

6 指導方針

(1) つかむ過程

- 【言葉カードAセット】は、「光村・国語2年上p130～131」に載っている言葉で、仲間分けが容易にできると思われる言葉を集めた。これらの言葉の分類を通して、「どんな仲間の言葉なのか」に着目すると分けやすいことに気づかせるようにする。
- 言葉集めがしやすいテーマを決めて集めさせる。
- 「○○は、△△を、□□した。」のような文型に、第1時、第2時で仲間分けをした言葉を当てはめて文章を作る練習をして、作り方を理解させる。

(2) 追究する過程

- 1・2年生混合の異学年児童でグループを作ることで、教え合う姿やリーダー性を発揮する場面が見られるようにする。
- 【言葉カードAセット】の分類体験を生かして、【言葉カードBセット】(「やってみよう！にほんごかんたん」に載っている言葉)の分類に取り組ませる。これらの言葉の分類を通して、言葉には、一つ一つのものを表す言葉と、まとめていう時の言葉があることに気づかせるようにする。

- グループ活動の場面では、「みんなで」「一緒に」「これでいいか、みんなにきいて。」といった言葉を使って声かけをし、協力して、みんなが納得して活動が進められるようにする。
- 調べたことを発表し合うことで、自分とは違う分類の仕方があることに気づかせるようにする。
- 発表する力を育てるために、発表は1人ずつ行う。
- 言葉の仲間分けゲームを取り入れることで、発表の仕方を考えて、自分の考えを伝う合う力が身に付くようにする。
- 文章作りをすることで、文中での言葉の使い方を理解しながら、言葉が習得できるようにする。

(3) まとめる過程

- 学習したことを振り返らせることで、言葉の定着を図る。

(4) 教師の役割分担

教師Aの役割	教師Bの役割
<ul style="list-style-type: none"> ○児童全員に向けて指示を伝える。 ○Aグループの学習の取り組みの様子を把握し、児童に思考や表現を促すような声かけをする。 ○発表の場面では、発表の手本を示したり、発表者の補助をしたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○教師Aの指示が、一人一人の児童に伝わっているか確かめる。 ○Bグループの学習の取り組みの様子を把握し、児童に思考や表現を促すような声かけをする。 ○発表の場面では、聞き手の児童が、発表者の方を向いて聞いているか確かめる。

(5) その他

- 「学びに向かう力、人間性等」については、第1時～第3時を通して見取っていく。

【「伊勢崎学校教育構想2020」との関わり】

言葉を仲間分けする時に、「まとまりの名前」を考えることを通して、多様な考え方ができるように、また、友だちの考えの良いところに「なるほど」と気付くことができるようにしていく。そして、学習した言葉を使って文章作りをすることで、新たに知った言葉を学習の中で使うことができるようにしていく。

7 本時の学習

(1) ねらい

- 日常生活で使っている言葉を、仲間ごとに分け、まとまりの名前やつけたしの言葉を書くことができる。

(2) 準備

- 児童：筆記用具

- 教師：ワークシート

言葉カードAセット（2年上 p130～131に載っているもの：色・天気を各3枚）

言葉カードBセット（飲み物・体・教室にある物・乗り物を表す言葉を各3枚）

(3) 展開

学習活動	支援及び留意点	時間	観点 評価項目(方法)
1. めあてをみんなで読む。		2分	
めあて：いつも使っている言葉を、仲間ごとに分けよう。			
2. みんなで考えながら、言葉を仲間分けする。	<p>教師の役割分担</p> <p>教師A・児童全員に指示を伝える 教師B・教師Aの指示が児童に伝わっているか確かめる。</p> <p>*【言葉カードAセット】をみんなで仲間分けしながら、仲間分けの方法をつかませる。</p>	15分	

<p>3. 仲間分けができたなら、まとまりの名前やつけたしの言葉を考える。</p>	<p>* 「6個の言葉の中に、仲間になるものはあるかな？」と投げかけて、どれとどれを仲間にしたらいいかを考えさせる。</p> <p>* まとまりの名前（「□□の仲間」の言葉）や、仲間分けしたものに入る言葉（つけたしの言葉）を考えさせる。</p>		
<p>4. 1年生と2年生混合のグループで話し合いながら、言葉カードの仲間分けや、まとまりの名前やつけたしの言葉を考える。</p>	<p>教師の役割分担 教師A・Aグループの取り組みの様子を把握し、声かけをする。 教師B・Bグループの取り組みの様子を把握し、声かけをする。</p> <p>* 【言葉カードBセット】を、ワークシートに貼りながら、仲間分けをさせる。</p> <p>* 仲間分けができたなら、まとまりの名前やつけたしの言葉を書くように伝える。</p> <p>【予想される児童の姿と支援】 A. 言葉の仲間分けをして、まとまりの名前を書くことができる。 ○ つけたしの言葉を考えて書かせる。 B. 言葉の仲間分けや、まとまりの名前を書くことに戸惑っている。 ○ 一つの言葉を取り上げて、それと仲間になりそうな言葉を見つけさせる。 ○ 何に関係している言葉なのかに着目させて、まとまりの名前を考えさせる。</p>	<p>25分</p>	<p>知識及び技能 ◇ 日常生活で使っている言葉を仲間ごとに分け、まとまりの名前やつけたしの言葉を書いている。 （ワークシート）</p>
<p>5. 仲間分けの結果を発表する。</p>	<p>教師の役割分担 教師A・発表の手本を示す。 発表者の補助をする。 教師B・聞き手の児童が、発表者の方を向いて聞いているかを確認する。</p> <p>* 発表の手本を示し、手順をつかませる。</p> <p>* 分け方やまとまりの名前を、自分達のグループのものと比較させる。</p>		

6. 学習の振り返りをする。	*言葉には、一つ一つの物の名前と、まとまりの名前があることを確認する。	3分	
----------------	-------------------------------------	----	--

8 参考資料(ワークシート・言葉カード)

【 】グループ

☆ことばを なかまに わけよう☆

※ここに、言葉カードをはりましょう。

のなかまのことばです。

							つけたしのことば
--	--	--	--	--	--	--	------------

☆言葉カードBセット☆

じてんしゃ	ばす	ろっかー	こくばん	あし	あたま	じゅーす	むぎぢゃ
でんしゃ	つくえ	うで	ぎゅうにゅう				

☆言葉カードAセット☆

くもり	はれ	くろ	あか
ゆき	あお		

